

## 平成 30 年度大学職員情報化研究講習会（ICT 活用コース）開催結果の概要

### 1. 参加状況

期 間：平成 30 年 12 月 13 日（近畿大学）

参加者：91 名・55 大学 1 短期大学 5 賛助会員（前年度 82 名・49 大学 1 短期大学 5 賛助会員）

### 2. 研究講習会の目標

本コースは、学修の質保証を確かなものとするため、学修成果の可視化、IR によるデータ活用、データ集計作業の支援、クラウドの導入・活用支援の取り組みや方向性の共有を目指した。

### 3. 研究講習会のプログラム

以下、5 件の情報提供を行い理解の共有を図った。

- (1) 「統合学生カルテとポートフォリオによる学びの質保証の取り組み」として、3 年時点の振り返りと卒業時点の学修達成度を確認する質保障システムを構築するために、ディプロマサブリメントの情報がまだ確定されてことから、全てのデータを蓄積した上で、その中からデータを抽出して学修到達レポートを自動作成している。
- (2) 「教育改革の推進に向けた学修成果の可視化にもとづく IR 戦略の取り組み」として、e ポートフォリオに正課や正課外などの活動で培った経験を蓄積することで、学修成果をレーダーチャート化、アピールポイントの表示などにより、1 年・2 年・3 年次でプレ・ディプロマサブリメントを発行して教職員の支援を受けながら振り返りと目標の再設定を行っている。
- (3) 「総合データベースを用いてデータの集計・マッピング・可視化を行う IR 実践の支援」の賛助会員の取り組みとして、大学が抱えている独自性の確保、学生の質保証、教育効果の測定などの課題解決に IR を用いて、客観的なデータを横串し分析することで、改善策を仮説からエビデンスに基づき実証し、その結果を可視化するシステムとして、統合データベースとデータ分析ソフトの紹介と実演が行われた。
- (4) 「クラウドを活用した全学 ICT サービスの展開事例」として、情報資産管理をコスト、サービス、セキュリティなどの面から負担を軽減するため、暗号化、ウイルス対策、改ざん対策などのセキュリティ機能を持ったオンラインストレージサービス (BOX) を導入することで、メールの誤送信などセキュリティ事故の防御に役立っている。
- (5) 「クラウド導入の情報提供・相談～国立情報学研究所の学認クラウド導入支援サービス」として、クラウド移行時のチェックリスト、個別相談への対応、ワークショップの開催などの支援サービスとその利用状況やメリットが紹介された。

### 4. 研究講習会の実施結果

参加者のアンケートから、「大学の質評価基準が不明確であることを実感し、学修到達レポートの活用事例が参考になった」、「様々な学生データを取得してディプロマサブリメントに活用する事例が参考になった」、「教員が学生のポートフォリオにコメントすることの大切さが良くわかった」、「BOX の活用を聞いて自大学の情報資産管理の遅れを改めて感じた」、「クラウドサービスの導入を検討しており情報学研究所の支援サービスが参考になった」などの感想が寄せられた。